

2019年5月13日

各 位

会 社 名 株式会社 K e y H o l d e r
 代 表 者 名 代表取締役社長 明 珍 徹
 (証券コード番号 4 7 1 2 ・ JASDAQ)
 問い合わせ先 取 締 役 大 出 悠 史
 電 話 番 号 0 3 - 5 8 4 3 - 8 8 8 8

通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

本日付け「2019年3月期決算短信〔IFRS〕(連結)」において、2018年5月11日に公表いたしました2019年3月期の通期連結業績予想と実績値との間に差異が発生いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期 通期連結業績予想との差異 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上収益	営業利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株 当たり当期利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,000	百万円 300	百万円 100	円 銭 0.72
今回発表実績 (B)	10,611	△400	△158	△1.14
増減額 (B - A)	611	△700	△258	△1.86
増減率 (%)	6.11%	—	—	—
(ご参考) 前期実績 2018年3月期	8,409	45	1,243	8.93

※ 2018年3月期の連結業績につきましては、2019年3月期第1四半期連結累計期間より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しているため、IFRSに組み替えて記載しております。

2. 差異の理由

既存事業におきまして、商業施設建築事業が売上面では増収したものの、原価高騰の煽りを受け利益率が低下し、また不動産事業の不動産分譲部門において、一部販売用不動産の評価損を計上したことや、不動産賃貸部門において当初予定されていた大口収益不動産の売却が見直されたことなどの影響により、当該両事業においては利益面で計画比△400百万円となりました。

また、ライブ・エンターテインメント部門のK e y S t u d i oの運営におけるイニシャルコストの計上やリニューアル工事に伴う休館期間の発生により計画比△40百万円、売上の計上月が放送日基準となるテレビ番組制作部門においては、期末にかけて受注した翌期に放送される複数の新番組の対応による売上減少等の影響により計画比△80百万円、その他積極的なM&Aの実施に係るデ

ユーティリティ費用や株主優待に係る追加引当コストの計上などにより、計画比△130百万円となったことで、計画に対する差異が合計で△650百万円となりました。

以上の結果、売上収益では新規事業の開始や商業施設建築事業において大口受注案件を取り込んだことを背景に、611百万円増加の10,611百万円となったものの、営業利益では前述した影響などにより、700百万円減少の△400百万円となりました。

一方、親会社の所有者に帰属する当期利益では、投資有価証券の評価益及び売却益等を金融収益に389百万円を計上したことなどにより、マイナス幅が減少し258百万円減少の△158百万円となりました。

(注) 上記の差異におきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により発表数値と異なる可能性があります。

以上